

沖縄調査報告

人権擁護委員会委員 鈴木 貴子 (62期)

1 はじめに

2010年11月12日から14日にかけて、人権擁護委員会(以下「当委員会」という。)による沖縄調査が実施された。本調査は、今回で14回目を迎え、濱田広道副会長、当委員会の森田太三委員長、当委員会沖縄問題部会長の中村晋輔委員をはじめ、総勢14名が参加した。

2 沖縄調査の意義

なぜ東弁の委員会に沖縄部会があるのか、東弁会員がわざわざ沖縄に出向いて調査をする必要はあるのか。私は、沖縄部会や沖縄調査のことを最初に知った時、素朴に疑問を持った。

しかし、これらの疑問の答えを、私は今回の調査を通じ、身をもって知ることになった。

事前に読んで臨んだ、今回の沖縄調査のテーマに関する書籍、新聞記事、雑誌記事、裁判書等の資料では代えられない貴重な経験をする中で、沖縄の抱える問題が俄然立体的に迫ってきた。

沖縄の問題は、沖縄で起きている問題には違いないが、それは、沖縄のみが抱え込んで解決しなくてはならない問題であることを意味しない。そのことを実感した3日間だった。

3 米空軍嘉手納基地内「軍事法廷」見学

第1日目、那覇空港に到着し昼食後、その足で、軍事法廷(高等軍法会議施設)見学のため米空軍嘉手納基地を訪問した。

米空軍嘉手納基地が軍事法廷の見学を弁護士会に許可

するのは今回が初めてということで、沖縄弁護士会さえ経験のない機会を与えられたことに感謝しつつも、どのような対応をされるのだろうかと半ば不安な気持ちで基地に入った。

しかし、軍事法廷に案内されると、米軍法務官より手厚く歓迎の意を示され、こちらが面食らうほどだった。

まず、米軍法務官から、米空軍嘉手納基地や米軍についての概括的な説明があり、引き続き、当委員会が事前に準備した軍事司法制度等についての質問に対する詳細な回答をいただいた。

具体的には、米軍法務官の日頃の業務には法律相談なども含まれていること、米軍法務官は、軍人として射撃等の訓練も受けており、イラクをはじめとする戦闘地域にも派兵されることなど、経験談を交えてお話くださった。

他に、嘉手納基地内の軍事法廷で2010年1月から11月12日までに行われた軍事裁判は、窃盗・性的虐待・違法薬物に関する罪等の事案についてのわずか5件であり、2009年については10件であること、在日米空軍全体で行われた軍事裁判は、2010年1月から11月12日まででは14件、2009年については22件であること、軍事裁判は米軍基地内で一般公開されているので、「エスコート」をする米軍基地関係者がいれば日本の弁護士が傍聴をすることも可能であることなど、興味深く伺った。

その後、軍事法廷が設置されている建物の中を見学した。金曜日の午後だったこともあってか、実際に仕事をしている職員の数も少なく、米軍法務官の息子さんと思しき幼児がはしゃいで建物内を駆け回り遊んでいる光景が見られるなど、平穏な時間が流れているように感じられた。

その印象と、これとは対照的な、沖縄の基地問題に関して住民が抱える苦悩と痛みに対する思いとが交錯し、複雑な心境になった。

4 沖縄弁護士会との懇親会

沖縄弁護士会の人権擁護委員会との懇親会では、切実さと熱意をもって基地問題などに取り組んでいらっしゃる弁護士の生の声を聞くことができ、大変刺激を受けた。

「沖縄の問題を東弁が取り上げてくれることには大きな意味がある。今後も東弁の活動に期待している。」という言葉が印象に残った。

5 沖縄公文書館見学

第2日目、沖縄公文書館で、沖縄県文化振興会公文書主任専門員の仲本和彦氏からお話を伺った。日米密約に関わる現在までの歴史的背景と国の対応についてや、核持ち込み・朝鮮有事の際の米軍出撃・沖縄への核再持ち込み・沖縄の原状回復補償費支払いの肩代わりに関する4つの密約について、また、情報公開制度を有用なものにするために不可欠である公文書管理法（2011年4月に施行予定）についてなど、様々なお話を伺うことができた。

公文書館内の見学では、文書や写真等の情報の一つひとつが、厳重に保管されていることを目のあたりにした。

「公文書館は、社会がどれだけ民主的であるかを図るバロメーターである。」と言った人がいるそうだが、日本でも、公文書館が果たす役割の重要性が益々認識されていくことの必要を痛感した。

6 泡瀬干潟埋立公金支出差止訴訟レクチャー・泡瀬干潟見学

沖縄調査の締め括りとして、泡瀬干潟を守る連絡会事務局長の前川盛治氏から、泡瀬干潟埋立問題と市民の取組みについてレクチャーを受けた。

沖縄市内にある泡瀬干潟は、多種多様な生物が生息する貴重な干潟である。そして、泡瀬干潟埋立公金支出差止訴訟とは、沖縄市の住民らが、埋立事業により希少生物が生息する自然が破壊されるとして、沖縄県知事と沖縄市長を相手取り、事業に対する公金支出の差止めを求めて提訴した訴訟である。

那覇地裁では、具体的な計画がない現段階では事業に経済的合理性が認められないとして、将来の公金支出の差止めが命じられた。福岡高裁那覇支部でも、基本的に地裁判決が踏襲され、既に確定している。ところが、現在、埋立事業は再開される見込みである。

泡瀬干潟埋立問題は、環境アセスの問題、事業の経済的合理性の問題であるのみでなく、米軍基地との関わりと切っても切り離せない問題なのだという。

前川氏のお話からは、基地の島であるが故にまかり通っているという自然環境保護の視点を無視した公共事業に対する憤りと、沖縄の自然を守っていききたいという熱い思いを強く感じた。

前川氏には、レクチャーの後、大変な豪雨にもかかわらず、泡瀬干潟を案内していただいた。

7 最後に

沖縄が抱える問題は、全国の他の地域にも共通する問題を含んでいる。そして、その背景には、国民全体が考えるべき重大な課題が横たわっている。

その意味で今後は、沖縄の問題について、より一層国民全体で考え、取り組んでいくことが求められていると思う。これを実現するためにも、多くの弁護士会が問題意識を共有することが必要ではないか。

全国の弁護士会の中でも最多会員数を誇る当会が、その牽引役を務めるべく、沖縄調査をさらに充実したものとして継続させ、それを活かして、問題を丁寧に取り上げていくことが重要なのではないかと思う。

*表紙裏にカラー写真掲載

広報委員会市民交流部会 市民メンバーと最高裁判所を見学

広報委員会市民交流部会委員 西川 達也 (61期)

1 はじめに

平成22年11月18日に行われた市民交流部会の最高裁判所見学会について報告いたします。

広報委員会の一部会である市民交流部会は、一般公募による「市民メンバー」に向けて司法関連施設の見学会、弁護士との懇談会などの活動を行っています。今回の見学会はその一環として、昨年度に引き続き実施されたものです。20名の市民メンバーの皆様、当会の山田正記副会長、小峯健介市民交流部会長らとともに、私も引率弁護士の1人として参加させていただきました。

2 庁舎見学

当日は、最高裁秘書官の方のご案内で、最初に会議室で最高裁判所の概要についての説明を受けた後、庁舎見学と

して図書館、大ホール、大法廷の見学をしました。

それぞれの場所で、施設の説明のみならず、図書館ではかつて大審院の法廷に掲げられていたという絵画、大ホールでは和洋折衷様式のテミス像の由来なども大変丁寧に説明をしていただき、大法廷では、最高裁判事が法廷に入出する扉（電動！）の開閉もしていただきました。

大法廷では、この法廷が使われることは年に数回しかないとの説明に、市民メンバーの方からは驚きの声が上がっていました。

3 須藤判事との懇談

続いて、第二小法廷に移動し、当会出身で弁護士から最高裁判所判事に任官された須藤正彦判事からお話を伺うことができました。



市民メンバーの皆さんと
須藤正彦最高裁判事（後列中央）

須藤判事からは、弁護士時代と最高裁判事になってからの生活の違い、担当している膨大な事件数、最高裁判事としての責任の重さ、厳格なスケジュールなどについて、市民の皆様にも分かりやすくユーモアを交えながらお話をいただきました。

続く市民メンバーとの質疑応答では、メンバーからの質問に丁寧に答えられました。個人的には、激務の中でストレスをどのように解消しているのですか、との質問に、山のように積まれた仕事をこなして減らしていくしかない、それが一番のストレス解消法です、と仰っていたことが大変印象的でした。

市民メンバーからは、最高裁判事は雲の上の人だと思っていたけれど、温かい人柄に触れて、親しみを感じるこ

うことができました、との感想が数多く寄せられました。

4 おわりに

今回の最高裁判所見学会は、私にとってもめったに行く機会がない最高裁判所内部に足を踏み入れ、かつ現役の最高裁判事から直接お話を伺うことができるという大変貴重な経験でした。

司法に対する市民の方々の声を直接聞くことができ、またこのような貴重な経験もできる当部会の活動に、来年度以降多くの会員の皆様にも参加していただければと思います。

ご協力いただいた須藤判事、最高裁判所事務局に改めてお礼申し上げます。

2011年度東弁役員等選挙

次期会長に竹之内明会員が当選、副会長・監事は無投票

2011年度東弁会長、副会長、監事、常議員及び日弁連代議員の選挙が1月24日に告示され、2月4日に投票が行われた。



当選証書を受け取る竹之内会員（右）

会長は、選挙が行われた。また、副会長、監事、常議員及び日弁連代議員は定員を超えず無投票となった。

東弁役員選挙結果

【会長】投票

当選 竹之内 明(25期) 3084票
次点 武内 更一(38期) 522票
投票率 56.74% 有権者数 6426人

【副会長】無投票当選/届出順

吉野 高(39期) 藤原 浩(33期) 内田成宣(35期)
山中尚邦(38期) 篠原煜夫(34期) 白井 剣(37期)

【監事】無投票当選/届出順

山田博重(42期) 末次弘明(48期)

※常議員、日弁連代議員はLIBRA4月号に掲載予定